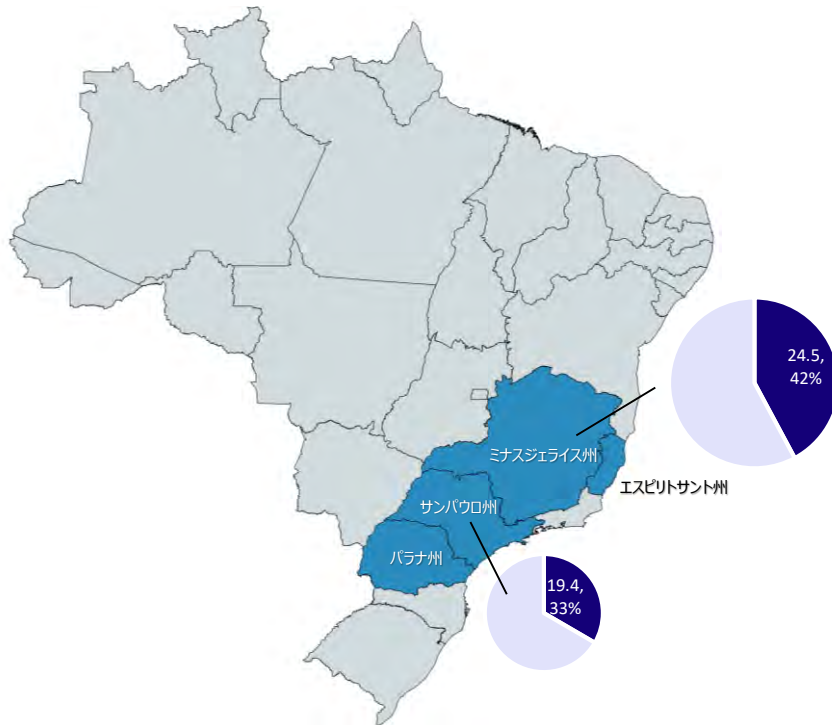


主要国のコーヒー産業振興策

- 世界最大のコーヒー生産国ブラジルにおけるコーヒー生産は、現在南東部が中心であり、ミナスジェライス州、サン・パウロ州であり、2州で国内生産の75%を占める
- ブラジルのコーヒー産業は19世紀前半からパラ州、パラバ州、リオデジャネイロ州を主要な産地として振興していたものの、1870年の霜害による大幅減産、1929年の大恐慌を受け、南東部へ生産地域が変更された経緯がある
- 2021年にも主要産地での霜害が報告されたことで世界の市場価格が高騰した

ブラジルの主要コーヒー生産州と生産量(2021/22年度、100万袋)



霜害とは

- コーヒーの木が降霜により被害を受けること。
- 熱帯性植物であるコーヒーは急激な気温変化に弱く、降霜に伴い、水分を多く含むコーヒーの葉が凍結する。凍結した葉は茶色に変色し、場合によっては一夜で枯死してしまうこともある。
- 多年生の喬木であるコーヒーは霜害により、大規模な剪定・植え替えが必要となる可能性も発生し、また生育に数年かかることを踏まえると、収穫量の大幅な減産も発生する

2021年7月の霜害

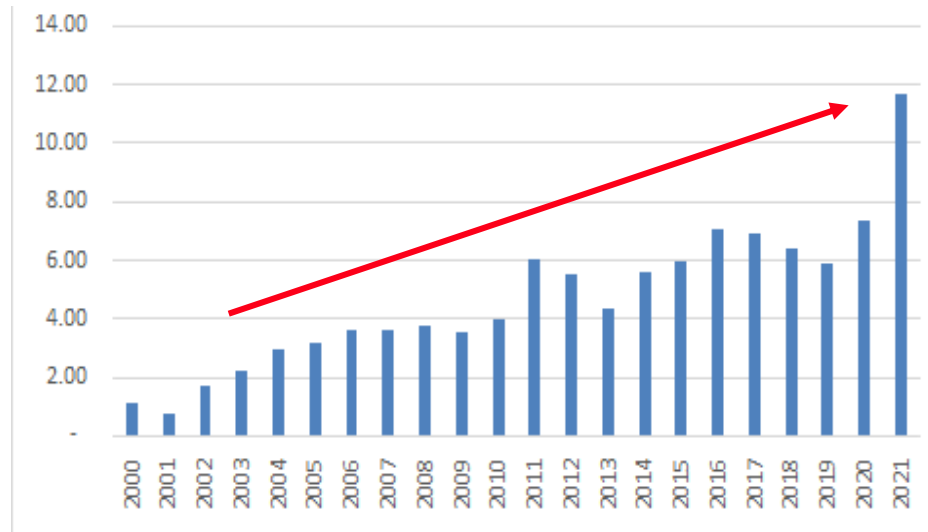
- 2021年は隔年で訪れる生産量の少ない「裏作」の年
 - 2020年11月には熱波、2022年7月には寒波により、ミナスジェライス州南部、パラナ州ではほぼ全ての地域で降霜が確認されている
- 生産量の大幅な減産が予想され、取引価格が急騰

出所：米国農務省Foreign Agricultural Service, "Coffee annual ", 2022年6月8日公表よりみずほリサーチ&テクノロジーズ作成
 ブラジルコーヒー輸出協会(CEACAFE)ウェブサイトより作成(<https://www.cecafe.com.br/en/about-coffee/the-history-of-coffee/>) 2023年3月5日最終アクセス
 上島珈琲ウェブサイトより作成

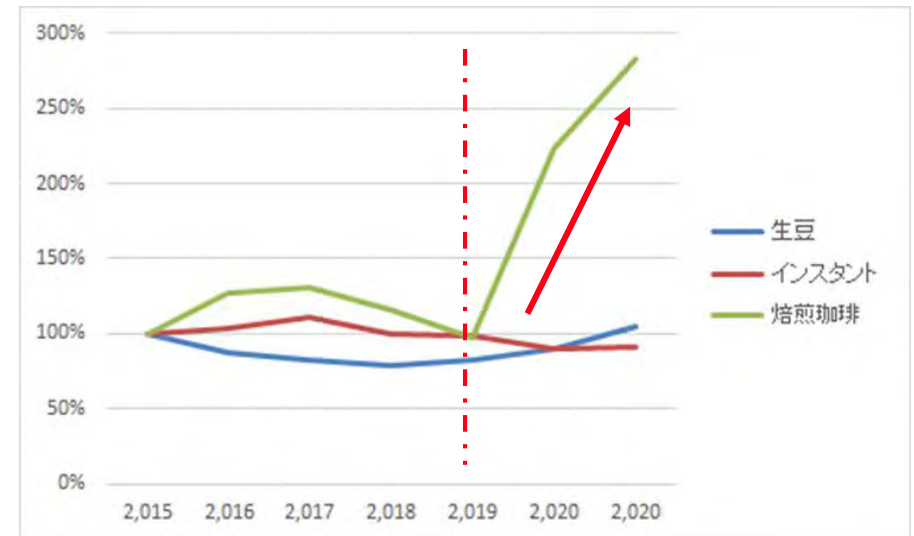
主要国のコーヒー産業振興策

- ブラジルでは量的生産から、品質重視の生産へと転換している。コーヒー豆のトン当たりの価格は年々上昇を続けており、また、コーヒー関連輸出額の推移を確認すると、2019年以降焙煎コーヒーの輸出額が急激に伸びている。これにより、ブラジルにおいてはこれまでの生豆輸出から自国で焙煎したコーヒーの輸出によって、高付加価値のコーヒー生産へと転換している過程にある
- 政策的にも、ブラジルコーヒー品質向上策として、焙煎コーヒーの品質を公式に管理するための省令PORTARIA SDA Nº 570を2022年5月に発表し、公式焙煎コーヒー分類基準により、検査機関が品質、衛生状態、および消費者に提供される植物由来の製品の識別を検証および管理できるようにしている

ブラジルで生産されたコーヒーのトンあたりの価格（単位：千レアル）



ブラジルのコーヒー関連輸出額の推移（2015年=100）



出所：ORIENTAL CONSULTANTS GLOBAL DO BRASIL LTDA作成



4. コーヒー豆

- 4-1 コーヒー生産国の概要
- 4-2 コーヒーの国際流通の現状
- 4-3 海外企業の実績事例
- 4-4 コーヒー関連の持続可能性認証の利用状況

コーヒー豆の国際貿易

- コーヒーの輸出国上位5か国はブラジル、ベトナム、コロンビア、ホンジュラス、インドネシアである。ブラジルは一貫して輸出量1位となっており、ベトナムも1990年代半ばから輸出量を伸ばし、2000年以降は一貫して2位の輸出量を誇る
- コーヒーの輸入国上位5か国は米国、ドイツ、イタリア、日本、フランスとなっている。1990年以降、米国とドイツが1位と2位を占め続けており、日本も上位3～4位の輸入国となっている

輸出量上位10か国（2019年）

	国名	輸出量（千袋※）
1	ブラジル	40,698
2	ベトナム	27,400
3	コロンビア	13,672
4	ホンジュラス	6,765
5	インドネシア	6,334
6	インド	6,028
7	ウガンダ	4,526
8	エチオピア	3,921
9	ペルー	3,772
10	グアテマラ	3,613

輸入量上位10か国（2019年）

	国名	輸入量（千袋※）
1	米国	30,854
2	ドイツ	22,432
3	イタリア	10,914
4	日本	8,040
5	フランス	7,993
6	ベルギー	6,199
7	スペイン	5,984
8	ロシア	5,917
9	英国	5,554
10	オランダ	5,354

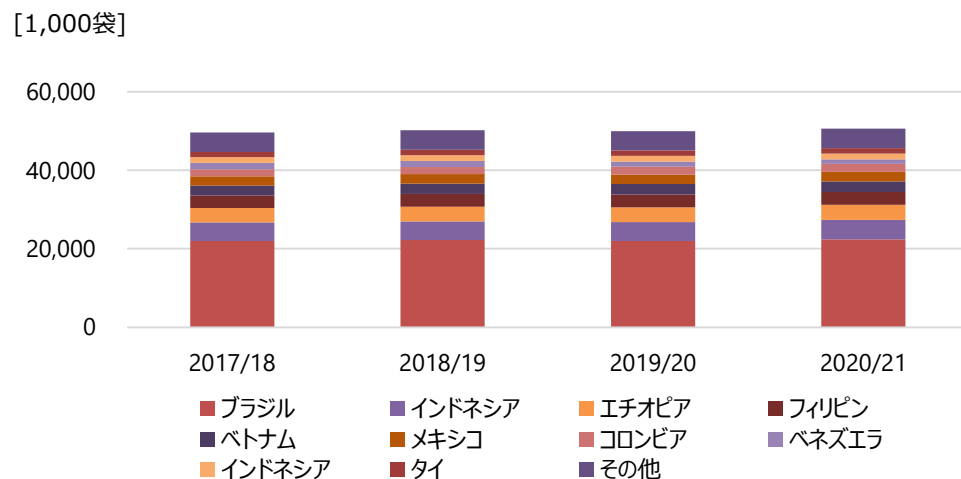
※ 1袋60キロ

出所：国際コーヒー機関（International Coffee Organization）,「Historical Data on the Global Coffee Trade」より作成

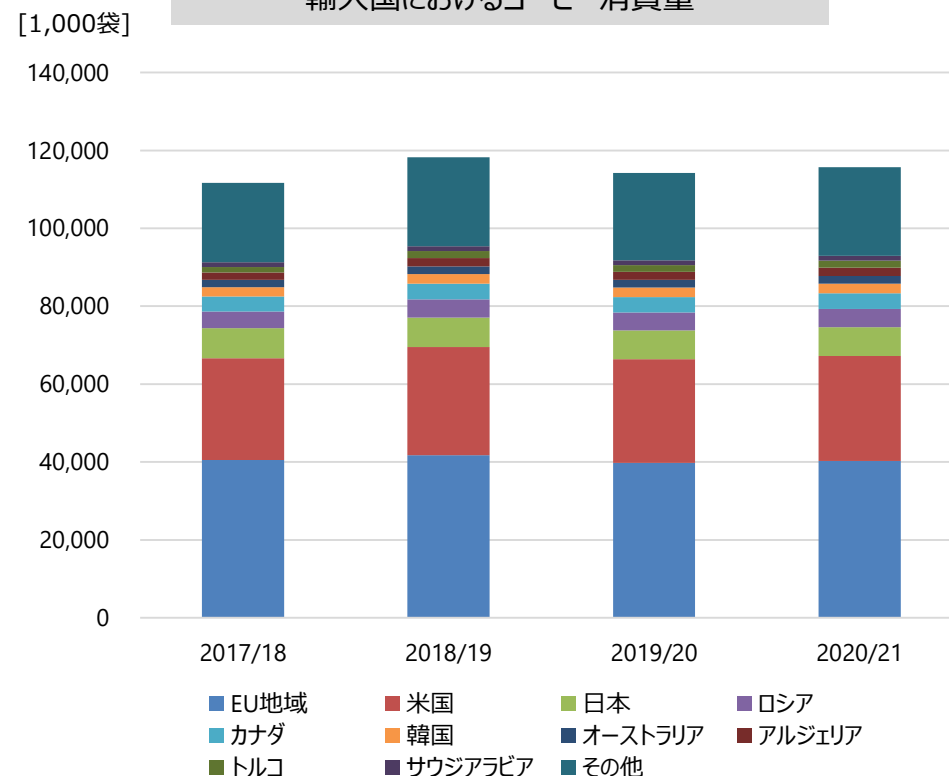
コーヒー豆の主要消費国

- コーヒーの需要は、2017年以降ほぼ横ばいで推移しており、2020/2021年度の世界でのコーヒー豆の消費量は166,346千袋（1袋60キロ）となっている。消費量のバランスを見ると2/3以上が輸入先国で消費されている
- 生産国と消費国が明確に分かれており、消費国側には価格競争を起こす作物がないことが、コーヒー豆価格が上がりにくい一つの要因となっている

生産国におけるコーヒー消費量



輸入国におけるコーヒー消費量



※コーヒーの収穫年は10月～9月で集計

出所：国際コーヒー機関（International Coffee Organization）「Trade Statistics Tables」よりみずほリサーチ＆テクノロジーズ作成